

◆ 1日のスケジュールや活動内容を理解しよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

高等部1年生。生徒全員が自閉症を併せ有する知的障害の生徒である。日常生活の指導における対象は学級生徒7名。音楽の指導での対象生徒はその中で、聴覚過敏があり、音楽室に入ることができなかった男子生徒1名である。

2 指導目標

- ・スケジュールや活動内容を理解し、見とおしをもって活動に取り組む。
- ・一日の学習の様子を振り返り、達成感をもつ。

3 取組の中心となる教科・領域等

- ・日常生活の指導
- ・音楽

4 使用したアプリ、周辺機器

<使用アプリ>ロイロノート、カメラ

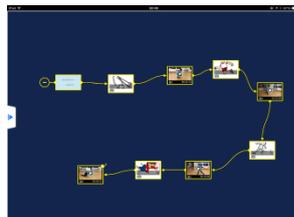
<周辺機器>Apple TV、

5 指導の経過及び児童生徒の変容

<朝の会・帰りの会（日常生活の指導）>

朝の会、帰りの会は毎日行うので、ルーティン化し、ともすれば生徒の会への興味や関心が低くなってしまふことがある。教員と生徒のやりとりが形式化してしまうこともある。高等部に入り、朝の会や帰りの会に慣れ、教員の話聞き流している様子が見られた。生徒が「先生の話聞いてみよう」と思えるように、生徒の興味を引きやすい画像を使ったプレゼンテーションを行うことにした。

また、口頭での説明だけでは理解が難しいことが多い。朝の会での、予定確認では、活動の場所や内容の変更があった場合、写真やイラストや動画を使って説明することが効果的であると考えた。帰りの会での一日の活動の振り返りにおいても、授業の様子をビデオ撮影しておき、その日の自分の活動の姿を見ることで、視覚的に振りかえることができる。



iPad を使うと、「先生の方を見なさい」と言わなくても興味を持って顔を上げ、話を聞く様子が見られるようになった。教員とのやりとりでも、活発に発言するようになった。

<音楽>

対象生徒は年度当初から音楽室に入ることができず、廊下に置いた椅子に座って窓越しに授業の様子を見ていた。しかし、それでも落ち着いて座ることができず、自教室に戻ったり、離れた場所に行ってしまうことが多かった。

最初の手立てとして、カード式のショートスケジュールの提示と授業の残り時間を示すタイマーアプリを使った。iPadに興味があり、タイマーを操作してしまうので、アクセスガイド機能を使用した。

数回、この状態で様子を見た。離席は減ったが、スケジュールカードを触ったり、タイマーを触った

りして、授業が終わるのを「我慢して待っている」ように見受けられた。また、音楽室から離れようとするのは、「歌唱」「楽器演奏」がきっかけであることが多かった。大きな歌声や打楽器の音が苦手なためであろうと考えられたが、この方法ではそうした生徒の困難さへの支援が十分ではなく、生徒が授業に参加するためには、改善が必要であると思われた。授業の様子が本人に分かるようにしたまま、音源から距離を置くのがよいのではないかと担当者と話し合い、Apple TV を使って授業を中継し音楽室から離れた場所で様子を見ることができるよう環境を作った。

ショートスケジュールとタイマーの使用は継続して行った。Apple TV への興味もあったのか、着席して最後まで画面を見るようになってきた。ショートスケジュールと画面を見比べて次に演奏される曲名を自分から言うこともあり授業に関心を持っている様子が見えてきた。また、授業が終わると音楽室の入り口まで行き、楽器を返したり、終わりの挨拶をしたりできるようになった。

しかし、設定した場所がオープンスペースであったため、他の学級の児童生徒が近くで活動したり、興味をもって近づいて来たりすることが何度か続き、この席でも離席するようになった。そこで、他の生徒があまり来ない場所に変更した。新しい場所に変更したのは、冬休みが終わった頃からであった。新しい場所になって、最初の呼名の時に、音楽室に入って返事をするできるようになった。この場所で数回続けるうちに、最初はこの席に座るが、授業の最初の呼名の順番が来たら自分から音楽室に入って授業を受けることができるようになった。一度入ることができるようになると、それからは続けてみんなと一緒に授業に参加することができるようになった。授業では、本人が興味を持ちそうな楽器



を準備し、音楽室内では、教員からの積極的なアプローチはせず、本人が自分から活動に参加するのを待つように心がけた。今年度最後の授業では、自分でドラムセットを選び、提示されたリズムをみんなと一緒に演奏することができた。歌唱

では、教室の隅に隠れたり、カーテンで顔を隠したりすることはあったが、教室を出ることはなく、最後まで授業を受けることができた。



6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

一般的に自閉症の生徒にとっては視覚的な提示が理解しやすいと言われている。日頃から絵カードを作って提示するといった支援を行っているが、動画はより生徒の関心を引きやすいのではないかと考えられる。活動を振り返る場合、自分がどういう様子なのかを視覚的にフィードバックする場合に iPad で動画を見せることは効果があると思われる。

こうした指導を行う時、動画、静止画の撮影や編集・加工操作が煩雑であると毎日の朝の会や帰りの会では使いにくい。また、その日の活動を撮影してすぐに見せるためには短時間で作成する必要もある。iPad であれば、1 台で撮影、編集ができる。使ったアプリは「ロイロノート」である。「ロイロノート」は短時間に動画や静止画、イラストを交えたスライドショーの作成ができる。また、編集も簡単である。

音楽の事例では、大きな音に対する本人の不安を軽減しつつ、授業の見通しをもつことができるようになるための手立ての一つとして iPad を使った。苦手な音源から離れた場所を確保することで「苦手

な場面では、離れた場所から授業を受けることができる」という経験を積み、それが不安感を軽減する要因になったと考えられる。「クールダウン」として、その場所から離れることが必要な場合もあるが、この生徒の例では、入室できない状態が続いており、音を避けるためとはいえ、音楽の授業の様子が分からない場所で過ごすことは本人の不安感を軽減することにはならなかった。本人にとって安心できる場所で繰り返し授業の様子を見て、見通しをもったことが参加につながったと思われる。